共生社会を実現する認知症研究プラットフォーム構築

代表機関/代表者　東京大学　新美　芳樹
研究期間：2024年度～2028年度

研究開発目的

様々な認知症性疾患への対応が可能であり、今後の認知症臨床研究において、各研究間でのデータ信頼性の担保や、データ共有が組み込まれたデザインを提供できるプラットフォームを構築する。本人等の視点が反映され、双方向の情報共有が可能になるだけでなく、本人等の意見が研究班や企業に届く、PPI（Patient and Public Involvement）の実装を目指す。また、PPP（Public Private Partnership）の拡大による産官学等の連携促進し、DCT（Decentralized Clinical Trial）機能実装による臨床研究の全国展開を可能とする。国際連携、データのオープン化による認知症研究の促進も図っていく。

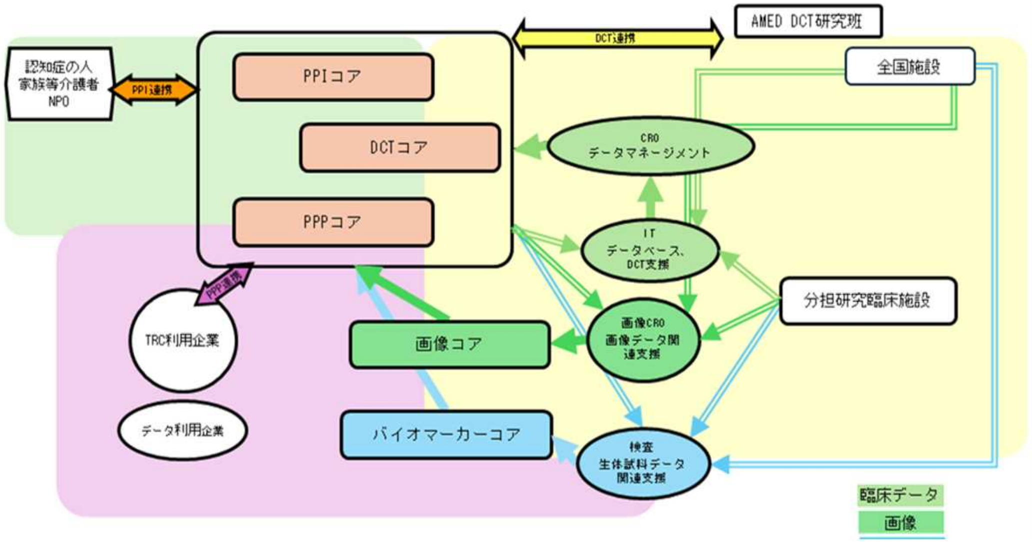
取り組み

①：PPI（Patient and Public Involvement）プラットフォームの構築
②：TRC（Trial Ready Cohort）機能を発展させるためのるプレスクリーニング体制の運営
③：DCT（Decentralized Clinical Trial）体制の検討、④：治験参加支援事業などのPPP（Public Private Partnership）、データ利活用の推進⑤：国際連携、⑥:多様なデータの包括的評価・解析。

成果

TRC（治験参加支援含む）の安定運営継続。PPI意見交換実施。DCT目途にプレスクリーニング実施体制を確立。

今後の展開

DCT化の推進。TRCの拡大。

研究体制